

技術士 2 次試験に合格して



竹田 昂平
(たけだ こうへい)

勤務先

株式会社 シビテック

構造部

〒003-0002 札幌市白石区東札幌 2 条 5 丁目 8 番 1 号

TEL 011-816-3002 FAX 011-816-2561

E-mail k.takeda@civitec.co.jp

■ 専門：建設部門(鋼構造及びコンクリート)

1. 自己紹介

私は 1990 年(平成 2 年)に札幌市で生まれ、育ちました。2009 年(平成 21 年)に北海道大学工学部に入学し、土の凍上に関する研究を行い、卒業論文を書きました。その後 2013 年(平成 25 年)に北海道大学公共政策大学院に進学し、国土政策や新エネルギーの推進について勉強しました。

当時は公務員を志願していましたが、建設コンサルタント会社のシビテックに入社することとなり、7 年間橋梁を中心に設計業務に携わりました。

入社当時は建設コンサルタントという職種についてほとんど知らなかった状態でしたが、仕事を続けることで建設コンサルタント業が社会に必要な存在であることを実感しました。

2. 受験の動機

建設コンサルタントに入社した時から「技術士」を土木系資格の最高峰と考えており、いつかは取得したいという目標がありました。また、若いうちに資格を取ることで担当業務の幅が広がり、技術者としてより成長するという期待もあり、受験に至りました。

3. 経過

筆記試験対策は、まず国土交通省の資料をネットで探し国土交通政策の動向などについて理解しました。次に、建設部門は受験者数が多いことから SUKIYAKI 塾の合格論文例が参考になると考え、合格論文例の書き方を参考にして自分なりの答案例を作成しました。

試験勉強を始めたのが 4 月に入ってからで筆記試験本番まで時間がなく、また 1 回目の受験で気持ちに余裕があったため、テーマを 3 つに絞り各テーマの解答を作成しました。

また、社内で筆記試験の模擬試験を実施し、自ら

の論文に改善できる点がないか確認しました。

筆記試験本番では見事に読みが当たりましたが、初回受験なので流石に B 評価がついて不合格だろう…と思いつつ、結果を見ると合格でした。

筆記試験に合格したのは嬉しいのですが、本当の問題はこれからです。□頭試験の質問内容は幅広く、また若手の受験者に対して厳しい質問が多いという話も聞いて難しいと思っていました。

面接系の試験は事前の練習も大事ということで、SUKIYAKI 塾や社内で模擬試験を行って受け答えの仕方や、想定質問について学びました。最終的に 80 種類ほどに及ぶ想定質問を作ってどんな質問が来ても答えられるようにしました。

□頭試験の直前は緊張していましたが、いざ試験が始まると特に厳しい質問はなく、ほぼ想定していた質問ばかりで思いの外あっさり終わりました。いい意味で予想が外れました。試験終了後は帰りの飛行機まで時間があつたため、東京観光の後空港で□頭試験の内容を復元しました。

合格発表の日は「流石に受かっている」という気持ちが 99% で、「万が一落ちたら…」という気持ちが 1% でしたが、合格しており安心しました。初の受験で合格したことは誇りに思っています。

4. 今後に向けて

無事技術士の資格を獲得したわけですが、あくまでスタートラインに立ったことに過ぎず、本当の勝負はこれからだと考えています。

「技術士」が単なる肩書きに終わらないように、技術士という資格を有効活用して多くの業務に携わり、自己研鑽を続けて技術者としてレベルアップを続けていきたいと思えます。

最後に、受験にあたってご支援していただいた皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。